

聖書

BASE Is Biblical And Solid Essentials

BIBLE

Introduction

序論



私は詩、伝奇物語、 幻想文学、伝説、 神話を生涯にわたって 読んできた。 それらがどういう文学か、 私は知っている。 聖書はそのどれとも 全然 違っているのだ。

-Clive Staples Lewis

聖書は人間の 空想の産物ではなく 神のことば

信頼できる 聖書から 神の心を 受け取る者と なりたい

聖書の構成 聖書の正典問題 聖書の読解法

Chapter 1

聖書の構成

Section 1-1

旧約と新約





旧約聖書

新約聖書

「約」とは 契約よび約束 の「約」

Section 1-2

旧約聖書の構成

ユダヤ的な分け方

タナク 聖書

トーラー **律法**

創世記 出エジプト記 レビ記 民数記 申命記

ネビイーム **預言者**

前預言者

ヨシュア記 士師記 サムエル記 列王記

後預言者

イザヤ書 エレミヤ書 エゼキエル書 12預言書

ケトゥビーム **詩篇**

詩書

詩篇 箴言 ヨブ記

巻物(メギロート)

雅歌 ルツ記 哀歌 エステル記 伝道者の書

歴史書

ダニエル書 エズラ・ネヘミヤ記 歴代誌

文学的な分け方

旧約聖書

歴史書

モーセ五書

創世記 出エジプト記 レビ記 民数記 申命記

詩書

ョブ記 詩篇 箴言 伝道者の書 雅歌

預言書

大預言書

イザヤ書 エレミヤ書 哀歌 エゼキエル書 ダニエル書

小預言書

Section 1-3

新約聖書の構成

新約聖書

歴史書

マタイの福音書 マルコの福音書 ルカの福音書 ヨハネの福音書 使徒の働き

手紙

ローマ人への手紙 コリント人への手紙 第一 コリント人への手紙 第二 ガラテヤ人への手紙 エペソ人への手紙 ピリピ人への手紙 コロサイ人への手紙 テサロニケ人への手紙 第一 テサロニケ人への手紙 第二 テモテへの手紙 第一 テモテへの手紙 第二 テトスへの手紙 ピレモンへの手紙 ヘブル人への手紙 ヤコブの手紙 ペテロの手紙 第一 ペテロの手紙 第二 ヨハネの手紙 第一 ヨハネの手紙 第二 ヨハネの手紙 第三 ユダの手紙

預言書

ヨハネの黙示録

新約聖書

歴史書

福音書

共観福音書

マタイの福音書 マルコの福音書 ルカの福音書

ヨハネの福音書

使徒の働き

預言書

ヨハネの黙示録

手紙

パウロ書簡

ローマ人への手紙

ガラテヤ人への手紙 コリント人への手紙 第一 テサロニケ人への手紙 第一 コリント人への手紙 第二 テサロニケ人への手紙 第二

獄中書簡

エペソ人への手紙 ピリピ人への手紙 コロサイ人への手紙 ピレモンへの手紙

牧会書簡

テモテへの手紙 第一 テモテへの手紙 第二 テトスへの手紙

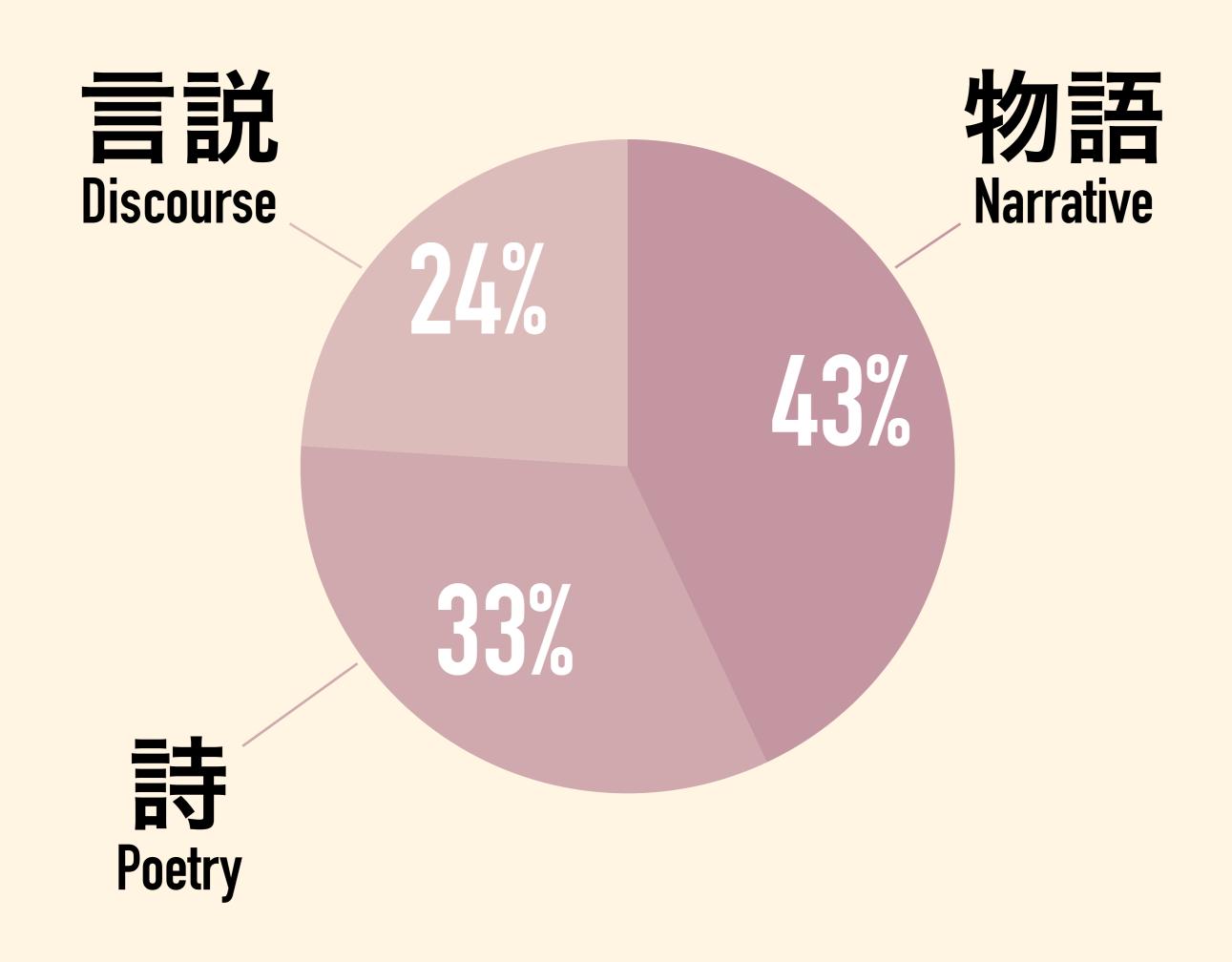
公同書簡

ヘブル人への手紙 ヤコブの手紙 ペテロの手紙第一 ペテロの手紙 第二

ヨハネの手紙 第一 ヨハネの手紙 第二 ヨハネの手紙 第三 ユダの手紙

Section 1-4

聖書の文体



Section 1-5

第1章のまとめ

聖書の構成を 知ることは 聖書を読む ガイドラインと なる

Chapter 2

聖書の正典問題

Section 2-1

ことばの整理

正典

外典

偽典

Section 2-2

旧約聖書の正典化

それは、 義人アベルの血から、 神殿と祭壇の間で おまえたちが殺した、 バラキヤの子ザカリヤの血まで、 地上で流される正しい人の血が、 すべておまえたちに 降りかかるようになるためだ。

アベル

創世記の殉教者

ザカリヤ

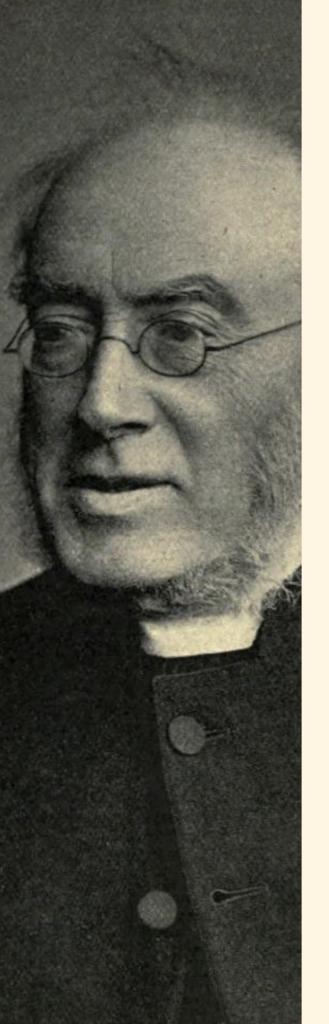
歴代誌の殉教者

Section 2-3

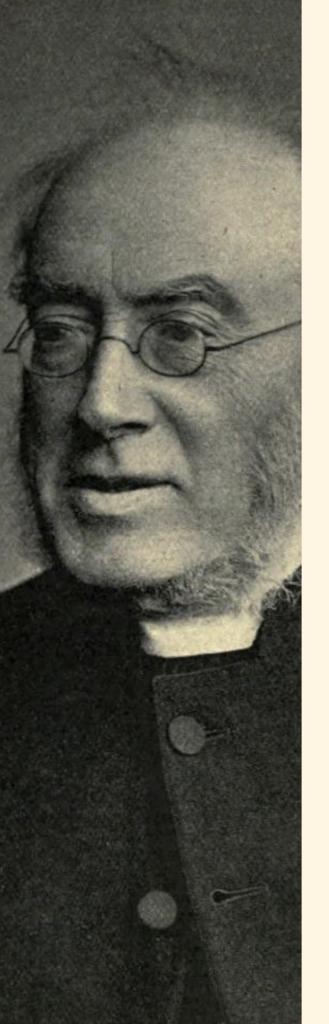
新約聖書の正典化

新約聖書正典判断4基準

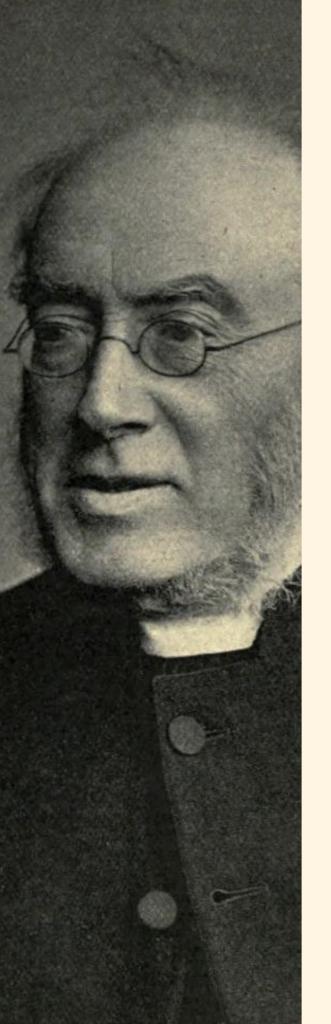
- 01 使徒的な権威のあるものか
- 02 教会全体から受け入れられているか
- 03 正統的な教えと矛盾しないか
- 聖霊による霊感を感じさせる霊的、 倫理的価値を含んでいるか



正典の形成にあたって、 初期において 教会の指導者層の干渉が 全くなかったこと、 この問題を取り上げて論じた 教会会議はないこと、 公式の決定は 何もなされなかったことは 注目すべき事実である。



正典は 自ら形をなしていった ように思われる。 権威による干渉がなかった というこの事実は、 現在われわれが持っている 福音書の真作性を 立証する大切な論拠であることを、 覚えなければならない。



なぜなら、 これらの正典となった書巻が 他の書巻を 全く圧倒し去ってしまったのは、 外からの 権威の力によったのではなく、 全く書巻自体の 重要性によるものであったことが はっきりするからである。

-George Salmon

主の書物を調べて読め。 これらのもののうち、 どれも失われていな。 それぞれ自分の伴侶を 欠くものはない。 それは、主の口がこれを命じ、 主の御霊がこれらを 集めたからである。

イザヤ 34:16

Section 2-4

第2章のまとめ

旧約聖書の 田典はが キリスいた 認の

新約聖書の 新典性は 使性が あるか

聖書は 人の権威によらず 66巻の形と なった

Chapter 3

聖書の読解法

Section 3-1

聖書を読む必勢

砕かれた思い

Section 3-2

聖書読解法基本編

常識的に考える

字義的解釈

文脈に沿って著える

いまだかつて 神を見た者はいない。

ヨハネ 1:18

父のふところにおられる ひとり子の神が、 神を説き明かされたのである。

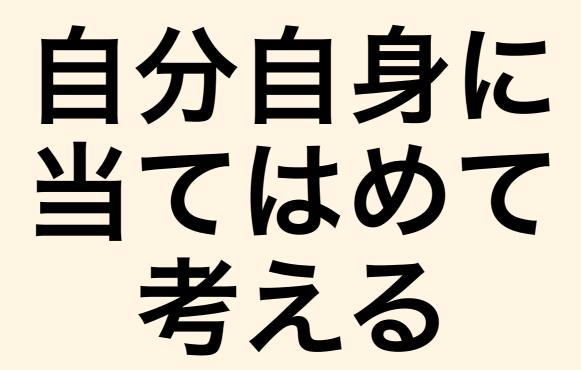
全体の教えに 照らして 考える

わたしは良い牧者です。

ヨハネ 10:11

わたしは、 彼らを牧する一人の牧者、 わたしのしもベダビデを起こす。 彼は彼らを養い、 その牧者となる。

エゼキエル 34:23



文脈と全体像の バランスの中で 常識的に考える

Section 3-3

聖書読解法 応用編

観察

Observation

歴史的意味を知りに理解する



Interpretation

本質的意味を抽出し抽の心を知る

適用

Application

現在的意味を生活に当てはめる

私(パウロ)は エルサレムから始めて、 イルリコに至るまでを巡り、 キリストの福音を くまなく伝えました。

しかし今は、 もうこの地方に 私が働くべき場所はありません。 また、イスパニアに行く場合は、 あなたがたのところに立ち寄ることを 長年切望してきたので、 旅の途中であなたがたを訪問し、 しばらくの間あなたがたとともにいて、 まず心を満たされてから、 あなたがたに送られて イスパニアに行きたいと 願っています。

しかし今は、 聖徒たちに奉仕するために、 私はエルサレムに行きます。 それは、 マケドニアとアカイアの人々が、 エルサレムの聖徒たちの中の 貧しい人たちのために、 喜んで援助をすることに したからです。

観察

Observation

エルサレムから始めて、 イルリコに至るまでを巡り、 キリストの福音を くまなく伝えました。

イルリコ

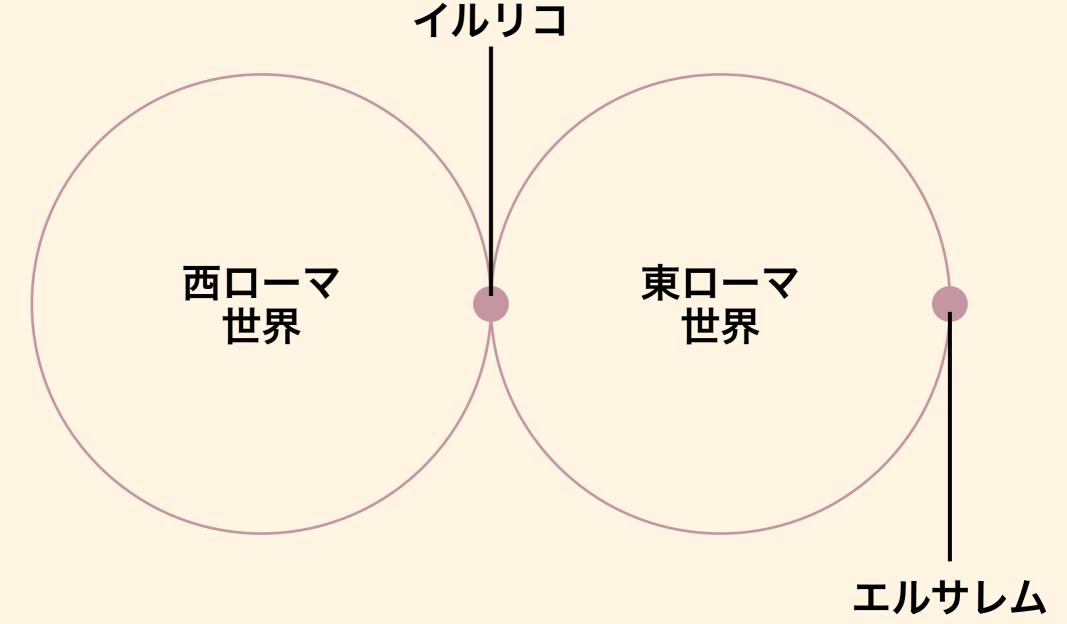


ユダヤ地方

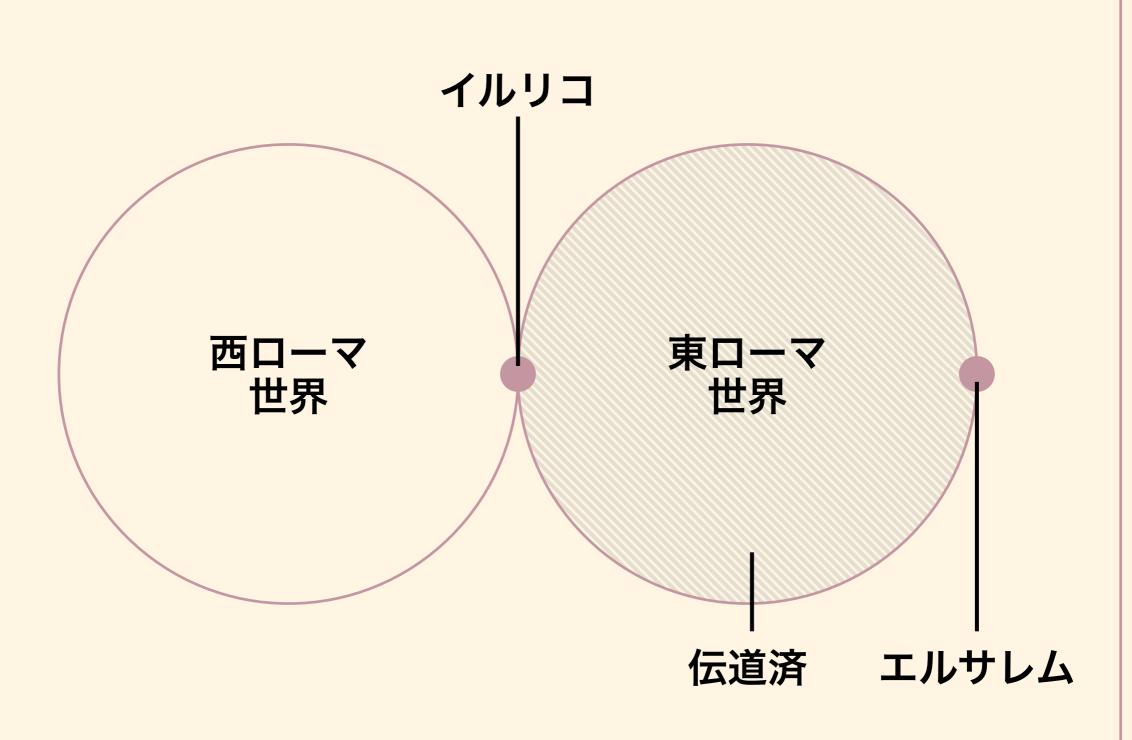


イルリコは ローマ領 東地方では 西端を 代表していた

東西ローマ世界概念図



東西ローマ世界概念図

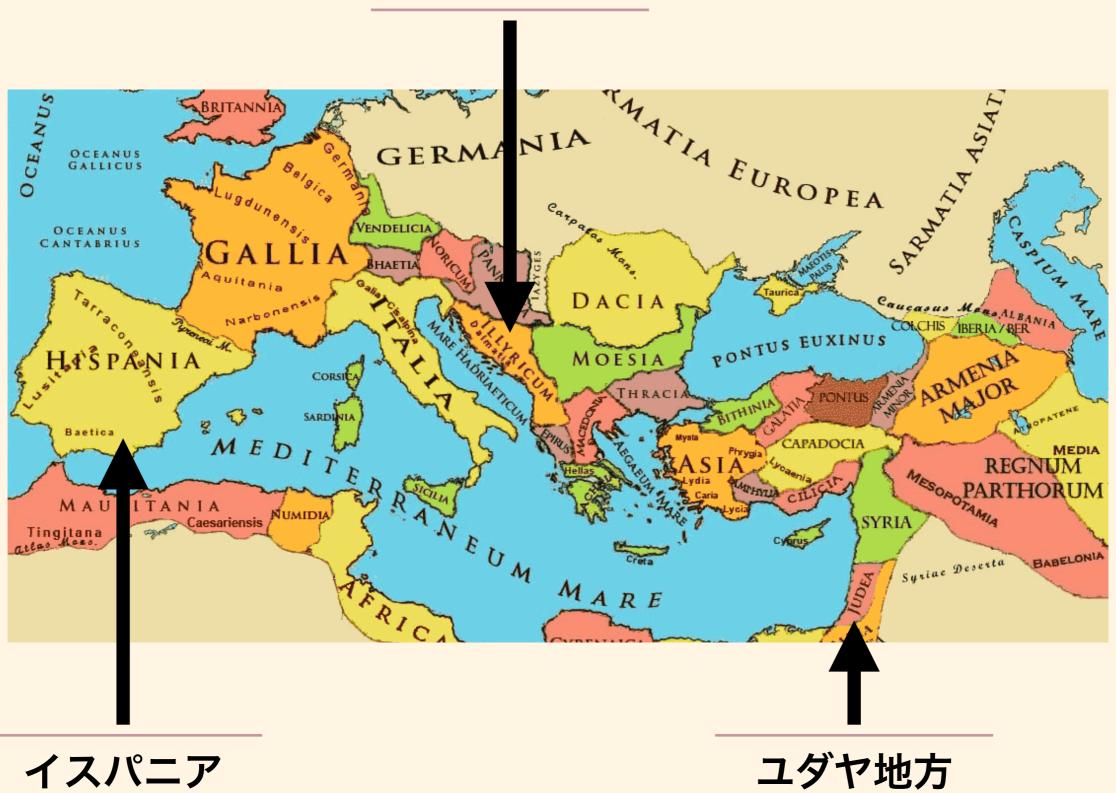


イスパニアに 行きたいと願っています。

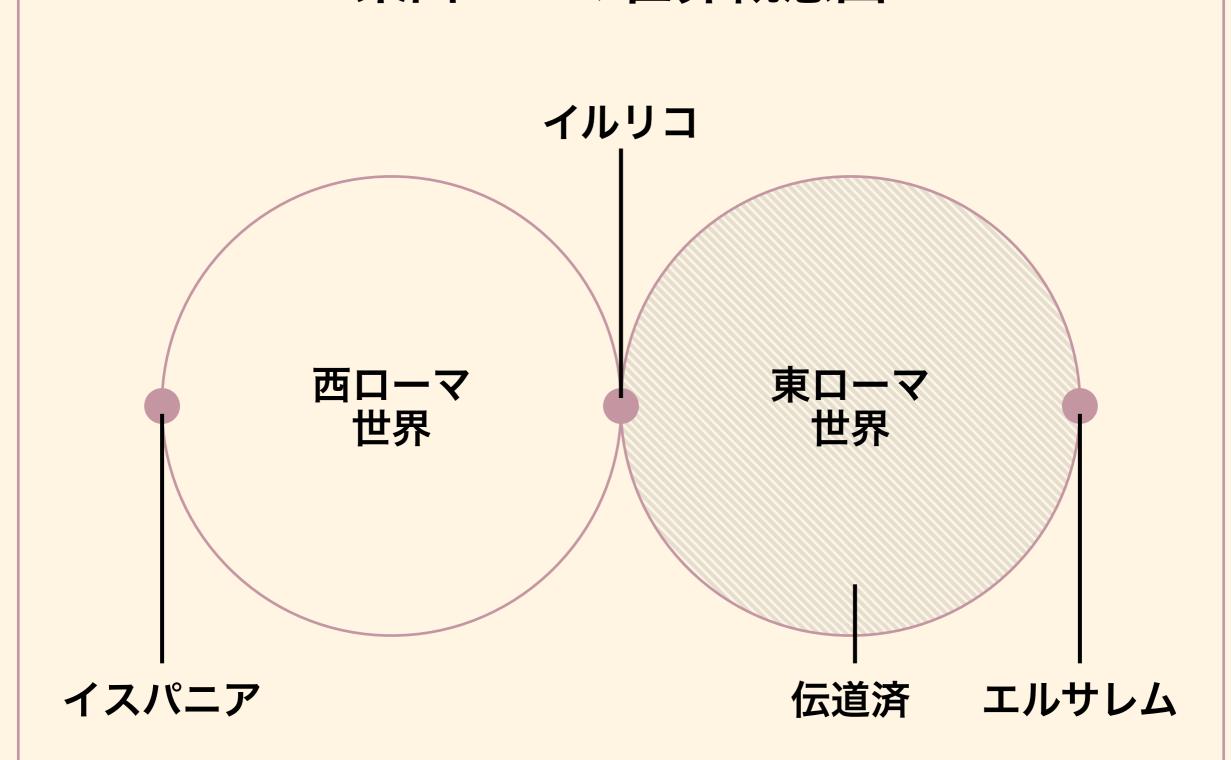


イスパニヤは、 つけるのかである。 当時であるである。 地域であるためである。

イルリコ



東西ローマ世界概念図



しかし今は、 聖徒たちに奉仕するために、 私はエルサレムに行きます。 (異邦人教会が) 貧しい人たちのために、 喜んで援助をすることに したからです。

観察で分かった事実

- 01 パウロは東ローマ世界の 開拓伝道は終わったと宣言した
- 02 パウロは西ローマ世界を 開拓伝道するビジョンがあった
- 03 パウロはエルサレムに 戻ろうとしている
- パウロがエルサレムに戻る理由は 04 異邦人教会からの献金を ユダヤ人教会に届けるため

歴史的意味を知りに理解する



Interpretation

- 01 パウロは東ローマ世界の 開拓伝道は終わったと宣言した
- 02 パウロは西ローマ世界を 開拓伝道するビジョンがあった

パウロの世界宣教への情熱

- **03** パウロはエルサレムに 戻ろうとしている
- パウロがエルサレムに戻る理由は 04 異邦人教会からの献金を ユダヤ人教会に届けるため

パウロは世界宣教へのビジョンを いったん置いてまで エルサレムに戻ろうとしている

ユダヤ人教会と異邦人教会の一致

兄弟姉妹の一致

本質的意味を抽出し抽の心を知る

適用

Application

働きをする動機は 兄弟姉妹への愛に 基づいているか

働きを愛して 兄弟姉妹を 愛していないことは ないだろうか

現在的意味を生活に当てはめる

Section 3-4

第3章のまとめ

聖書の読解は 神に 教えていだく 姿勢をもって

聖書を読む 基本が できていることが 大事

書を調べて読むはいい。時間の確保が必要

Whole Summary

全体まとめ

Summary Of Introduction

序論のまとめ

聖書が 神のことばである こと根拠を 深めたい

Chapter 1 Summary

第1章 書の構成 のまとめ

聖書を 分類することは 理解の助けになる

Chapter 2 Summary

第2章 書の正典問題のまとめ

聖書の正典化が神のうた

Chapter 3 Summary

第3章 書の読法 書の法と

聖書には 読み方がある

EOF

• 参考資料

内田和彦『「聖書は初めて」という人のための本』いのちのことば社、1999年
ルイス・スペリー・シェイファー『聖書の主要教理』聖書図書刊行会、1985年
吉田隆『キリスト教の"はじまり"一古代教会史入門』いのちのことば社、2019年
ヘンリー・シーセン『組織神学』聖書図書刊行会、1961年
ジョシュ・マクドウェル『徹底検証キリスト教一信じる根拠はどこにあるのか 第一巻 聖書』アール・オー・エス企画、2007年
リー・ストロベル『ナザレのイエスは神の子か?―「キリスト」を調べたジャーナリストの記録』いのちのことば社、2004年
榊原康夫『実用聖書注解(聖書の正典と外典)』いのちのことば社、1995年
河村従彦『"聖書読み"のコツ』いのちのことば社、2015年
泉田昭『新聖書注解 新約2(ローマ人への手紙)』いのちのことば社、1973年

• 改版履歴

2020年2月 初版 2020年9月 改版 2020年10月 改版 2020年11月 改版